

令和8年産コシヒカリ湛水土中直播（カルパー）栽培こよみ

●射水市農業技術者協議会

●射水市JAいみず野

●富山県高岡農林振興センター

●高岡地域農業共済センター

●全農とやま

- 重点技術対策
- 1 出芽・苗立の確保

苗立本数:60本/㎡程度
(12~24本/m)

○圃場の均平化

○適正な播種量による苗立確保
播種量:2.7kg/10a

○播種深度の確保:5~10mm

○播種後の田干しの徹底
(5~7日程度)

○田干し後の浅水管理
(播種後7日後から入水する)
- 2 適正な葉色への誘導

○適正基肥量
LPss直播コシヒカリ
粘質土:27kg/10a
壤質・砂質土:30kg/10a

○適期の中干し
6月上旬から開始
- 3 病害虫防除

○穂もち・カメムシ類等の防除
(8月上旬)
- 4 稲体の活力維持

○幼穂形成期から出穂までの
飽水管理

○出穂後20日間の湛水管理

収量構成の目標

項目	目標
㎡当たり穂数 (本)	390
一穂粒数 (粒)	70
㎡当たり着粒数 (百粒)	273
登熟歩合 (%)	85
玄米千粒重 (g)	22.0
収量 (kg/10a)	510

亀裂が入る程度

【播種後の田干し】

【入水の目安】

播種量
2.7kg/10a

苗立本数
60本/㎡程度
(12~24本/m)

茎数の推移

葉色の推移

最高茎数
550~600本/㎡

無効分げつ

有効分げつ期
6/12

最高分げつ期
6/28

幼穂形成期
7/15

穂数
390本/㎡
(118本/m)

出穂期
8/4

成熟期
9/13

【刈取適期】
2次枝梗が
黄化した頃

穂揃期
4.2~ 4.5程度

3.8程度

中干し開始

中干し

中干し後は間断かん水を行う
6月上旬まで遅れずに中干しを開始する
6月上旬までに溝掘りを行う

中干し

雑草の発生状況に応じて、中期除草剤を散布する
浅水管理で早期に茎数を確保する
浅水管理の徹底
除草効果を高めるため、散布後1週間は落水・かけ流しをしない
雑草の種類や大きさに合わせて除草剤を散布する
除草剤散布 ※防除こよみを参照
籾葉が出揃い、スジ状になったら入水する
圃場全体に亀裂が入るまで、田干しする
落水する
圃場全体を均一に干すため、播種後早めに溝を掘り、
播種後5~7日間の田干しの徹底
種子および肥料が落下しているか必ず確認する
生育量を確保するため、播種は4月25日~5月10日に行う
播種作業
加温処理した種子は、1日以内で播種する
種子の加温処理 :JAにて加温処理済み
少ない水で代かきし、均平に努め、練りすぎに注意する
播種の3~4日前に代かきを行う
代かき作業
荒代後は浅水で湛水し、雑草の発芽を促す
ため、耕起前に高低差をなくす
圃場の均平が出揃いや除草管理等に大きく影響する
圃場の均平
前年と同品種または転作あととする
直播栽培する圃場は、漏生籾による異品種の混入を防ぐため
圃場選定

月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月						
旬		上	中	下	上	中	下	上	中	下				
生育期			播種期	出芽・苗立期	有効分げつ期	無効分げつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	登熟期					
作業体系		荒代	代かき	播種	播種後の田干し	浅水管理	中干し	間断かん水	飽水管理	湛水管理	間断かん水	刈取り		
水管理			田干し 5~7日間程度	散布後 7日間は落水しない	(暖かい日に芽干しする)			溝掘り	病害防除	病害虫防除	飽水管理	湛水管理	間断かん水	刈取り
栽培管理のポイント														

・土壌分析結果に基づき、土づくりを行う
秋耕し・土壌改良資材の散布

・黄化率85~90%程度まで十分登熟させて刈り取る
適期刈取り
・刈取りの1週間前まで間断かん水する
・湛水管理で登熟向上を図る
出穂後20日間の湛水管理
・カメムシが多発した場合は3回目の防除を行う。
・2回目:1回目の7日後 ラブサイドK2フロアブル
・1回目:出穂期 ビームエイトスタークルゾル
基本防除
圃場は、出穂3日前までに追肥する
・出穂7日前の葉色が4.0以下(砂壤土4.2以下)の
生育に応じた追肥
・幼穂形成期以降は飽水管理により稲体の
活力を維持する
飽水管理
・足跡に水が残る

【飽水管理】